



感謝の気持ち

校長 田中 秋人

「暑さ寒さも彼岸まで」と昔から言われるように、記録的な暑さの続いた今年も少しずつさわやかな季節に移り変わりました。厳しい夏の暑さの日々も終わり、少しずつ秋の足音が近づいてきているようです。夏の間の数か月のニュースでは真夏日という言葉より、猛暑日という言葉をより多く聞いていたように感じます。早く秋晴れの空の下という言葉が多く聞かれ、運動に親しんだり、秋の夜長で読書をしたり、そして果実等の秋の味覚を堪能したりして、思い思いの秋を満喫できるように願っています。

暑さが少しは和らいだ9月のある日にうれしい出来事が二つありました。一つ目は放課後の校庭での出来事です。本校では放課後の時間に在校生が校庭で遊ぶことができます。遊びに来た子どもたちは、インターフォンで「校庭に遊びに来ました。遊んでもよいですか」と声をかけてから、鉄棒や遊具で遊んだり、ボールをつかってドッジボールやサッカーなどをしたりしています。校庭に遊びにきたある子が遊びを終え、帰るときにインターフォンで「校庭で遊ばせてくれてありがとうございました。」と伝えてくれました。その感謝の一言で職員室にいた職員にも笑顔が溢れ、気持ちが温かくなりました。後日、そのうれしかった事を学級に伝えに行きました。するとそこでも心が温かくなる子どもの行動に出会えました。それは、私が子どもに「お礼を言えるのは素晴らしい」と伝えたときに、その場にいた他の子どもたちから自然と拍手が起きたのです。褒められた子は照れながらもうれしそうな様子でした。

二つ目は運動会におけた活動の中での出来事です。どの学年も9月下旬に演技の練習が始まりました。運動会の活動の一つに応援団があります。今年も応援団長になぜ団長を目指したのかを聞く機会を設けました。その中でも、感謝の言葉が出ました。自分が応援団長になろうと思ったのは、今までの応援団長の姿を見て、舞岡小学校を応援するリーダーとしての優しさを感じ、自分も目指したいと思ったということでした。自分の目標となる姿を知ることができて感謝しているようでした。また二人の団長は同級生、当日はお互い、がんばろうと声をかけると私に伝えてくれました。そんな姿にも胸が熱くなりました。

校庭を使用したことへの感謝、自分の目標となった応援団長への感謝、たくさんの感謝の気持ちが学校を取り巻いていることを感じる事ができました。様々な場面で自分を支えてくれた人、自分を導いてくれた人、そんな誰かに感謝の気持ちを言葉にして伝えることはとても大切なことです。感謝の気持ちを育むためにも自分だけでなく、周囲の人たちも大切にできる心を引き続き育てていきたいと思えます。いよいよ運動会です。子どもたちの当日の頑張っている姿だけでなく、当日までの頑張りも見ていただければ幸いです。どうぞよろしくお祈りします。